



富山空港 ジェット機就航

富山空港（富山市秋ヶ島）に十八日、ジェット機が就航、富山県も「空の高速時代」に入った。初便の歓送迎行事に先立って開港式が行われ、中沖知事が「富山県の輝かしい新世紀への飛躍を期し、百十一万県民を代表して、ここに富山新空港の開港を宣言します」と、力強く述べた。【3面に関連記事】

待望！新世紀へ飛躍 一番機満席 3000人開港祝う

同日午前九時十五分、東京発の第一便、ボーイング737型機（百二十六席）が二千メートルの新滑走路に進入、爆音を響かせながら白地にスカイブルーとマリンドブルーのストライプをあしらった機体が空港エプロンに滑り込んだ。

第一便からは、住法相をはじめ、綿貫、野上、安田の四代議員、佐藤欣治・東京富山県人会連合会長らが降りたち、出迎えた知事らとジェット化開港を祝いあった。また、乗客にミスチューリップから県花・チューリップが贈られたほか、全日空のパイロットとスチュワーデスに、地元新保小の女子児童から花束が手渡された。

このあと、満席の富山発第一便が予定よりやや遅れて午前十時過ぎに出発したほか、午前と午後の二回、最新鋭機のB767型を使った遊覧飛行が行われ、正午すぎには香港に向けた初の国際チャーター便が出発した。この日は、午前中冷たい風と時々雪が舞うあいにくの天候だったが、初便の歓送迎行事が行われたころは、ターミナルビルの送迎デッキや、空港沿いの堤防に、約三千人が詰めかけ、開港を祝った。

東京がより近く 北アルプス越えて45分

富山空港のジェット化開港を待ちかねたように、東京、富山発の初便はいずれも満席（百二十六席）だった。

東京発の第一便には、県選出代議員四人をはじめ、東京富山県人会や全日空の各関係者、県出身者らが乗り込んだ。羽田空港を約三十分遅れて離陸したものの、松本市上空を通る直進コースを取ったため、北アルプスの素晴らしい景観を眺めながら、わずかに四十五分で富山空港に到着した。

乗客のうち、タレントの横山あきおさん＝富山市出身＝は、仕事で飛行機をよく利用する一人だが「これまで（プロペラ機のYS11型機）は、「呉羽山が見えないと飛べない」といわれたが、これからは確実に飛ぶことができるようで頼もしい。飛行機を使えば日帰りも可能になった」と喜ぶ。

全日空の中村大造社長も第一便で富山に駆け付けた。「わが社の路線の中で富山が一番遠かったが、ジェット化でぐーんと近くなった。たくさんの皆さんに利用していただき、ドル箱路線にしたい」と、期待をかける。

一方、富山発の第一便には、沖外夫参議院議員、馬瀬清亮県商工会議所連合会長のほか、ミスチューリップの二人（山崎靖美さん、川原正子さん）が乗り込んだ。ミスの二人は、全日空のスチュワーデスとともに、十八日午後二時から東京・銀座の松屋デパート前で、チューリップの切り花六千本をプレゼントし「富山県へいらっしやい」とPRに努めた。